

「お岩さんは 带状疱疹だった？」

田頃からよく耳にする病気ではないでしょうか。今回は「带状疱疹」についてお聞きしました。

**带状疱疹は
どんな病気ですか？**

带状疱疹は「おびくさ」とも呼ばれる水痘・带状疱疹ウイルスが原因の病気です。水痘「みずぼうそう」についてはよくご存知の方も多いと思います。発熱とともに全身に水疱が生じる子どものところに多い病気です。水痘に罹った時にウイルスは神経の根っこに潜伏します。このウイルスが体の抵抗力に打ち勝ち、神経に沿って出てくるのが带状疱疹です。過労、睡

眠不足、風邪を引いた後、また痛、糖尿病、膠原病などの病気があるとき、更に抗がん剤治療やステロイド治療で体の免疫力が落ちたときなどによく発症します。

**带状疱疹の症状を
教えてください。**

最初は一方の神経の領域に神経痛の様な痛みが生じます。人により痛みは激烈で夜も眠れない、食事も食べられないほどの痛みとなることもあります。これはウイルスが神経に沿って皮膚に出てくる

診断はどの様にしますか？

ときに神経を障害するための痛みです。その後数日たってから痛みのある場所に赤みを伴った小水疱が带状疱疹に生じてきます。この症状が「おびくさ」の俗名の起こりです。稀には神経領域だけではなく、全身に水疱が散在して生じることがありますが、これは汎発疹と呼ばれ重症の兆候です。その他神経の麻痺を起こすことがあり、顔面に生じたときには顔面神経麻痺が起こることもあります。

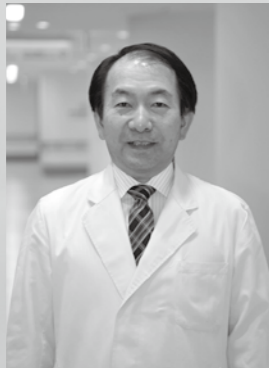
典型的な症状があれば、一目で分かります。痛みを伴い、一定の神経領域に赤みを伴った小水疱が带状疱疹に生じていればまず带状疱疹と考えられます。検査としてはウイルスの抗体の検査などがありますが、最も簡単にできる方法としては水疱の細胞診検査があります。これは水疱をつぶして内容物をスライドグラスに塗りつけ、染色して顕微鏡で見る方法です。水痘・带状疱疹ウイルスの感染した細胞があれば大きな核をもつウイルス性巨細胞が見られます。

治療方法を教えてください。

抗ウイルス剤の投与をできるだけ早期に行うことが大切です。痛みに対しては鎮痛剤、神経の回復を助けるビタミン剤などを使用します。また最近では末梢神経障害性疼痛に対するよい薬も開発され、带状疱疹後の神経痛もかなり緩和されるようになってきました。余談ですが、私が医者になった

当時はまだ抗ウイルス剤は開発されていませんでした。このため、治療には難渋し重症の場合は傷跡がひどく残り、1ヶ月以上入院していたこともありました。また带状疱疹後の神経痛は50歳で50%、60歳で60%、70歳で70%残ると言われていました。昔「おびくさの皮疹が体一周回ると死ぬ」と言われたのもうなずける状態でした。しかし水痘・带状疱疹に対する抗ウイルス剤が開発されてからは治療期間も短くなり、入院しても1週間程度で退院していただけるようになり、带状疱疹後神経痛も激減しました。この抗ウイルス剤開発に携わった研究者の何人かがノーベル賞を受賞したことからもその功績の大きさがうかがえます。私は「お岩さん」は顔面の带状疱疹だったと思っています。もしお岩さんが現在の治療を受けていれば「お岩さん」は存在しなかったかも知れませんね。治療方法は進歩しましたが、まだ激的な神経痛が残ることもあります。この疾患にならないために

今月の先生



岐阜市民病院 皮膚科
米田和史 先生

- 専門分野
皮膚腫瘍、アトピー性皮膚炎、皮膚科疾患全般
- 役職
皮膚科部長
- 主な資格、認定
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
日本皮膚悪性腫瘍学会評議員
- 卒業年、主な職歴
昭和53年岐阜大学医学部卒業
岐阜大学医学部附属病院
大垣市民病院
ウィーン大学第1皮膚科学教室留学